

開講科目名 / Course	生体機能論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	濱中 良志	
担当教員名 / Instructor	岩崎 香子、濱中 良志	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	高度に統合・調整された生命体である人体の機能を学ぶことにより看護の現場における患者の抱える疾患を理解し、質の高いケアを提供できる能力を養うことを目的とする。人体を構成する各々の臓器を組織学的な視点から肉眼的な視点に至るまで学習し、各臓器の相互関係についても理解を深める。	
到達目標	1. 細胞から個体レベルまで生命活動を営むための人体の生理機能について説明できる。	
DPとの対応	2. 看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力	
授業計画	01. 総論 02. 呼吸器系（上気道） 03. 呼吸器系（下気道） 04. 血液系 05. 消化器系（口腔・食道） 06. 消化器系（腹部消化管） 07. 消化器系（肝臓・胆のう・膵臓） 08. 循環器系（心臓の興奮） 09. 循環器系（心電図） 10. 循環器系（血圧の調節） 11. 筋・骨格系（骨のリモデリング） 12. 筋・骨格系（筋収縮） 13. 神経・感覚器系（神経の伝達） 14. 神経・感覚器系（運動ニューロン） 15. 神経・感覚器系（感覚ニューロン） 16. 内分泌系（ホルモンの作用） 17. 内分泌系（ホルモン分泌の調節） 18. 代謝系、免疫系 19. 腎・泌尿器系 20. 生殖器系	
その他の授業の工夫	講義で学習した生体機能論の理解を深めるために、各グループで事例について、発表する。	
時間外学修	該当の病気がみえるシリーズを事前に読んできて、疑問点を書き出して、予習をする。	
評価方法と評価割合	授業態度（小テストを含む）：20% と筆記試験：80% により評価する。	
テキスト	人体の構造と機能1 解剖生理学（医学書院）	
参考書	病気がみえるVol1～8（MEDIC MEDIA）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	濱中良志：臨床医
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	講義や事例の議論の際に、臨床経験を話すことにより、生理学の知識が臨床の現場で生かされることを強調して、学生のモチベーションを上げる。	